

○ナレーション

タイトル

にっぽん農紀行
ふるさとに生きる
く武蔵野台地に今も息づく
開拓者たちの農業遺産く
埼玉県編

① アバン

○絵手紙

絵手紙 伊東久子作

朗読 池ちさ子

○サツマイモ収穫ロング

さんとめしんでん
三富新田

朗読

「三百年もの昔
まだ荒れ野原で水も無かった
この土地を開拓し
平地林を山と呼び
寒い季節が来ると
くずはきで体を温め
堆肥をつくり
くる日もくる日も
土と向き合ってきた
そんな先人の根性と粘り強さが
開拓の歴史を紡いできた
みよし野菜に込められた
弾ける力
そんな野菜を未来へと
作り続けていきたい」

01・01・07・00

N 埼玉県南西部の三富新田。
さんとめしんでん

川越イモとして親しまれている
サツマイモの産地です。

○収穫アップ

○広々した畑と収穫風景

01・01・30・00

N ここは江戸時代の開拓地です。

入植した人々は、

雑木林の落ち葉を堆肥として

畑に施しながら、

川越イモを作って来ました。

01・01・56・00

N 今も、その伝統的な循環型農法を

受け継ぎ、川越イモを作り続けて

います。

○上富地区の遠景

にっぽん農紀行

ふるさとに生きる

～武蔵野台地に今も息づく
開拓者たちの野業遺産～
埼玉県編

②小江戸川越

○時の鐘ロンゲ

小江戸・川越

○街並みと観光客

ナレーター
長谷川博己

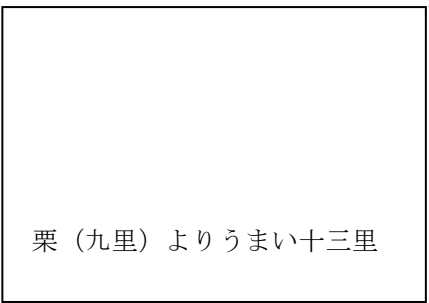
○新河岸川船着き場跡

新河岸川

01・02・35・00
N 江戸時代、城下町として栄えた川越は、江戸との関わりが深く小江戸と呼ばれていました。

01・02・46・00
N 今も、江戸の趣を求めて、毎年、およそ600万人もの観光客がここを訪れています。

01・03・04・00
N 新河岸川の舟運によって江戸と結ばれていた川越。川越産のサツマイモは、焼き芋として評判になり、栗よりうまい十三里という言葉を生みました。



○芋菓子店ロング

○店頭のいもせんべい



○芋せんべいの製造現場

01・03・28・00
N 川越の土産物として
有名なものに、いもせんべいが
あります。

01・03・36・00
N スライスしたサツマイモを
焼いて、砂糖で味付けした
シンプルなお菓子です。

01・03・45・00
N 考案されたのは明治時代。
日露戦争の時には食糧として
持って行ったそうです。